

「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」のための新聞利用のあり方

上田市立川西小学校 水野 哲

I はじめに

上田市立川西小学校は、上田市の西方、宅地開発が進みつつある小泉・仁古田・岡の平坦地と室賀の谷を校区に持つ、全校児童300名余り・各学年2学級規模の小学校です。

本校は、室賀・浦里・小泉の各保育園出身の児童を核としながら、10近くの保育園・幼稚園から子どもが集まり、「よく学ぶ子ども・美しい心・たくましいからだ」を学校目標として学んでいます。

高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見、一緒に仲良く遊ぶことが伝統となっており、友だち同士仲良く過ごすことができる子どもたちです。しかし、自分の気持ちを素直に表現することが苦手だったり、よりよく伝えようとする意欲が少し弱かったりする面があり、それを改善しようと昨年度までの2年間、表現力を高めるための研究と実践を続けてきました。

その成果と課題を受け、より積極的に思いを発信する力を高めていきたいと願い、平成17年度より「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」をテーマに研究することとなりました。同時に、NIEの実践校として指定を受け、2・4・6年生の担任が1名ずつ推進役となり、日々の学校生活の中に新聞を取り入れ、上記のテーマの達成に結びつく学習が成り立つよう研究を進めてきました。

II 実践の概要

- (1) 職員に対する、授業に利用できそうな新聞記事の紹介・活用のあり方の提案
- (2) 2・4・6年生における授業、学校生活での新聞活用のあり方の研究と実践

本年度は、新聞をどのように利用できるか、どのように授業・学校生活に組み入れていくかを試行することを中心に実践してみました。

III 実践の内容

1 職員に対する、授業に利用できそうな新聞記事の紹介・活用のあり方の提案

実施の方法と成果

17年度NIE実践校に指定を受け、9月から新聞を下記のように配達していただきました。

新聞名	9月	10月	11月	12月	1月	2月
朝日	○	○	○	○		
毎日			○	○	○	○
読売			○	○	○	○
日経		○	○	○	○	
産経		○	○	○	○	
信濃毎日	○	○	○	○		

できるだけ長い間、多くの新聞に触れられるように、なるべく多くの元旦号の読み比べができるようにと考えたからです。

会合で、前年度までの実践校の発表をお聞きし、まず教職員が新聞に慣れ親しみ、活用へのヒントを得られることが第一と考え、新聞は、すべて職員室に隣接した休憩室に係が並べて置き、一日が終わると職員室廊下に新聞ごとに積み上げていきました。

係は、毎日配達された新聞に目を通し、授業に取り上げることができそうな記事があると、研究通信に紙面を掲載したり、職員朝会などで連絡したりして新聞の利用が少しでも高まるよう手を尽くしました。

各紙の紙面は、取り上げられた記事やその軽重などそれぞれに特色があり、政治・経済・社会的な記事を比較すると大変おもしろいのですが、そのような学習場面を組むことは、小学生にはかなりむずかしく、無理ではないかという感じになってしまいました。

教育・文化面での記事は、教職員向けとして研究通信で紹介していましたが、これも各紙それに特色があり、参考になりました。

1紙だけをとっていたのでは触れることができなかつた資料を得るなど、たくさんの新聞を同時にみせていただくよさを実感できました。

研究通信抜粋

NIE関連ニュース1

10月より朝日・信濃毎日に加え、産経新聞・日本経済新聞が配達されます。

市立図書館へでも毎日行かなければ、新聞の読み比べなどできないと思いますが、その社説・論調は、各社ともかなりの差があり比べて読んでいただければそのちがいがはっきりしてくると思います。それを心に置きながら、日々の授業に新聞ネタをお話しただけるだけでも効果があると思います。(中略)

なお、低学年でのNIE授業で一般的な題材は、① 四コマまんがのせりふを白く塗りつぶし、そこに言葉を入れてみる。

② 一コマ一コマばらばらにして並び変えてもらう。③ 全員に一日分の新聞を配り、好きな一ページを抜き出して自分の読める漢字に○をする。などがあるそうです。(後略)

NIE関連ニュース2

先日、古い東山道の跡が、発見されたというニュースがありました。場所は、間島商会さんの道を進んで、農免道路に出る手前右のアパートの東の田んぼです。新しく工事をしようとして掘り返したところ、重機で掘ろうとしても簡単に掘れず、気づいたそうです。ついでに掘ってみると幅10m、左右にそれぞれ2mの側溝があるような粘土などできっちり固めた道路あとができました。(残念ながらもう埋め戻してしまいました。)

古代にこれほど大きな道路があったとは驚きだと思いますが、それが川西小学校をかすめるようにして、岡方面に延びていたようです。どこで浦野川を渡ったかななど考えるだけでもうきうきしてくるような気がしますが、いかがでしょうか。

今朝お配りした地図の中に線が引いてありますが、これが推定の東山道です。まさかこれほどまっすぐだとは簡単には思えませんが、今の高速道路のようにほぼ直線で作られていたようです。(後略)

課題と対応

このように対処してきましたが、本校でのいくつかの課題も見えてきました。

- (1) 職員休憩室に新聞を置き、校内の先生方全員が比較対照できるようにしましたが、実際には他の先生方に読んでいただく時間が確保できず、係が学校の様々な仕事を終えた後(または、それを後回しにして)1時間以上比較しながら読み、関係ある記事を紹介していくという形に留まってしまうことがほとんどでした。また、ある単元で利用したいと思う時には適当な記事が見つからず、いい資料があった時には単元の時期とずれているということが多く、思ったようには使えないという感じが強くなってしまいました。
- (2) 日々の通常の授業内容をこなしていくことに時間が必要なので、新聞を生かした、1回数時間を使うような単元を今のままの単元構成の上に組み入れていくことは大変むずかしいという面がでてきました。
- (3) また、子どもたちに新聞が届くのが遅れてしまう、図書館には、6紙を置くスペースがないなどの問題もあり、新聞の活用のあり方を変えていく必要があると考え、途中から、係が内容をさっと見て特に使えそうな記事があるかを見た後、朝のうちに対象学級に1紙ずつ配布するようになりました。

2 2・4・6年生における授業・学校生活での新聞活用のあり方の研究と実践

(1) 2学年での新聞活用の実践

2学年の実態

24名の対象クラス内で、新聞との関わりを聞いてみたところ、14名が家庭で地方紙であるA紙を購読し、約6名が全国紙のB紙、1名が全国紙C紙、残り3名が新聞を取っていない家庭でした。予想通り、家庭で新聞を見る子の多くは、テレビ番組欄、4コマまんがを読み、ほかは写真を含めてほとんど見ないということでした。

ご存じの通り、2学年の漢字能力では、読める内容は限定されています。しかし、興味関心のあるテレビ欄の内容でクイズ形式の問題を出してみると、前後の仮名文字や数字・テレビ局名などから総合して推理し、既習内容以上の漢字を「読むこと」ができました。

これらの実態を生かし、上記のようなテレビ欄を利用した「文字探しゲーム」を、全校で楽しむ児童会主催の「川西小まつり」で、放送委員会が実施し、1年生を含む60名以上の子どもたちが楽しむことができました。

そして、2学年の場合は、新聞に親しみ、自分の感想をメモし、友だちに伝えることを第一の目的に授業を実施することにしました。

授業の実際

① ねらい

子どもたちが、新聞の中から自分で興味関心をもった写真やイラスト・広告を選び出し、それを選んだわけをお互いに紹介することを通じ、自分の思い・感じたことを伝える力を高めたり、友だちの感性のよさに気づいたりするとともに、新聞への興味・関心を高めることができる。

② 実施時間

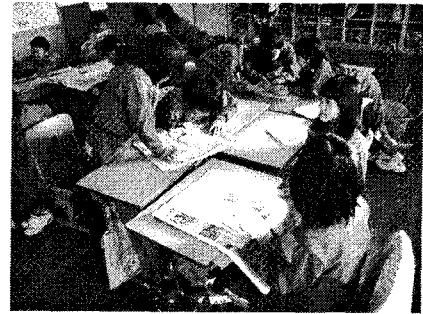
初回に限り、2時間（90分）。以後、1回につき45分で、月1回実施した。

③ 展開の実際

学習活動	活動の実際	備考
新聞の中からお気に入りの写真やイラスト・記事を探そう	1 1ヶ月分の新聞を用意し、全員に1日分ずつ配布する。 2 「配られた新聞の中から気に入る記事や写真・まんが・イラストを探そう」と声をかける。 3 その新聞(1日分)の中にいいものが無い場合、それを教卓に持ってきて、残っている新聞と交換して探すよう指示する。 4 選んだ「記事」を切り抜く。	用意するもの 1ヶ月分の新聞紙 はさみ・カッター のり付付箋紙 (コメントカード)
選んだわけをメモカードに記入しよう	1 選んだわけを付箋紙に簡単に記入する。 2 書けないでいる児童には、個別に話を聞き、書き方を指示していく。	
自分の選んだものを友だちに発表しよう。	1 1回目は、全体の前でしっかりと書けた子の「記事」を中心に紹介していく。2回目以降は、グループでの発表なども取り入れ、なるべく多くの児童の「記事」を紹介していく。 2 担任は、それぞれの子の発表後、選んだよさを認め、いろいろな観点で「記事」を選ぶ楽しさを高めるようにする。	・4コマまんがを選んだ子には、後で他紙の4コマまんがと比べてみるように促す。
発表を聞いた感想を発表しよう。	1 友だちの発表を聞いての感想をカードに書いたり、発表したりする。	感想記入カード

④ 成果と課題

- ・上記のような展開で、初めは2時間をかけ実施しました。やり方の説明、記事や写真・イラスト・漫画もいいということを説明しても「本当にそれでいいのか」という感覚もあるようで、なかなか選べなかつたのですが、二度三度やるうちに意欲的に短時間で選択できるようになりました。
 - ・はじめは、新聞紙を他の学級でもあとで利用できるようにという願いから、ていねいにカッターで切り、もとの位置に戻せば裏面もコピーして参照できるよう位置も確認できるように印をつけ、感想とともにクリアファイルに入れ、とかなり気をつかいました。しかし、限られた時間の中で、このような利用をするならば、裏面についてはあまり気にしなくてもよかったです、感想記入用紙に直接貼りつけるようにしていき、時間短縮を図りました。
 - ・やってみると、十分に漢字も読めないので、お隣の上田六中の着物ファッションショーの記事を選んだり、愛知万博関連のアンケートを持ってきたり、松本出身の草間彌生さんの作品展を選んだりと、その感性のよさに感心するとともに、クラス全員で「2005年〇月の記録」といったものに仕上げることができました。
 - ・はじめのうちは、テレビ欄・4コマ漫画などが中心でしたが、このような活動をくり返しやってみると、次第に新聞の他のページをみることへの抵抗感がなくなっていました。二月のころの実践では、身を乗り出して記事を探す姿も見られました。また、友だちの好きな記事・写真・イラスト・漫画などを知ることを通して、さらに仲よくなるといったよさができました。
 - ・17年度は、人権感覚を向上させる研究も並行して行っており、「相手を知る=相手を大事にする」をモットーに、これらの新聞を活用した学習のほか、様々な学習の場面で、友だちの学習のよさを担任が紹介したり、お互いにそのよさを理解し、発表したりする場面を増やしました。これらの活動の成果なのか、図工・音楽などの鑑賞の場面で思ひぬほど詳しく感想を書く子が少しずつ増えてきました。



わたしは、どうしてこのアッシュショ
ンショ一をアラシタのひわ
たはまきのがすこくすき
たがえらひました。
せひみてくださら。



4・6年での新聞活用の実践

4年での活動は、主として、朝の学級活動の時、気になる新聞記事を紹介するというものです。6年での活動は、この活動に加え、総合的な学習で、「栽培活動」と「戦争と平和問題を考える」をメインテーマに学習を進め、それぞれの学習の中で、新聞を積極的に利用しました。また、近くで古代東山道の遺跡が発見されたとの新聞記事を見つけると、そこへ見学に行くなどして、新聞記事を日々の学習の中に取り入れるように工夫を重ねました。

① 朝の学級活動での気になる新聞記事の発表

朝の学級活動の時間、児童が気になる記事を選んで、発表するようにしました。

4年生は、当番の2人がそれぞれに記事を選んで、スピーチタイムに発表するようにしました。

6年生は、1人が記事を選んで、スピーチタイムでの発表をすることとしました。

また、その日の記事に気に入ったものがない場合、職員室廊下においてある新聞より選んで、発表するということもしました。(原則として1週間以内の記事)

12月12日 今日のニュース

名前 T.N.

ニュースの見出し

・サザン証券巨額注文ミス

ニュースの要旨

(あおよその内容 短(まとめよう)
サザン証券は1月、東証も取引所マザーズに同日に上場した大株主としてスカジオムの株取引で、大規模な注文ミスをしたと発表した。
本日「61万円で1株」という売り注文を「1円で1万株」と誤って入力したとみられている。

感想

インターネットに「61万円で1株」と書こうとしたら「1円で1万株」と入力した人もほとんどないミスをしてしまったから、大げんかどうけたと思いました。
1円で61万株ももらおうなら、ほんも買いたいと思った

1月29日 今日のニュース

名前 S.S.

ニュースの見出し

・恐ろしきる悪霊

ニュースの要旨

(あおよその内容 短(まとめよう)
恐ろしい形相でいるのは、オーストリアで古くから伝わる悪霊「クランツ」。クリスマスや新年などのハリケーンで「クリスマス前の時季に行われる祭り」など、キャラクロースや悪霊を追いかけるとか。あまりの凶きさにやたら怖がります。

感想

・オーストリアでこんなことをするなんてびっくりしました。
この悪霊には日本の何日寺閣かか子のかな亞と感じました。

12月7日 今日のニュース

名前 Y.N.

ニュースの見出し

・新種?肉食動物の発見

ニュースの要旨

(あおよその内容 短(まとめよう)
インドネシアのボルネオ島で、珍(めずら)しき大き、新種の肉食動物が発見された。世界自然保護基金(WWF)は6日発表した。この動物は2005年12月、荷物と一緒に輸出されたが、輸出時に大きな荷物が漏れ落ちた。生物は赤毛でお腹が真っ赤。

感想

・ボルネオ島で珍(めずら)しき大き、新種の動物が見つかって、今までいたのが何と思いました。
・ほかにも長いひげもありました。

私のえらんだ 今日のニュース

8月29日 名前 (O.K.)

見出し・内容

・平成京南に広がる。いつ(こうはっけい)
当初予定で3年かかるが、これまで建設工事で、工事費用は約30億円とされる。
で、かんかうて、いたとつざいの3年。
なしほこ、ハキ3より少ない。と宏前やく
感想 四川で広がったのがやかった。
前回は「ナニで、計画がくそていたら
いい

かんこう
・みんな、みに広くてびっくりした。
せ、みんなに広がったのか、な
十條までいかくさん、スゴい

② 6年生の総合的な学習に関わって

6学年では、4年時から、栽培学習と、「川西の宝」を探る学習をメインテーマに総合的な学習を開いてきました。

その中で取り組んだ白菜栽培からキムチ作りをしようと学習が発展し、近くに住む韓国出身の方に作り方を教えてもらいました。その方のお話から、日本が起こした戦争について知ることとなり、「戦争と平和に関する学習」を継続的に進めていくことになりました。

6学年では、7月の松代大本營への見学をはじめ、学校そばの戦争遺跡、仁古田の地下飛行機部品工場跡へ行くなどして学習を深めていきました。

その中で、新聞の中から記事を見つけ、クラスの中で紹介し合い、感想を発表し合っていきました。



戦争について 6年2組 (Y. R.)

1. サイパン島での戦いについて (知っていた 知りたい)
 2. この記事を二つ並べて見る感想
- 私は、昔、戦争が世界中であったことは、分かっていたけど今、もう60年たって、中身をどうぞ聞いてくて、悲しくなってきた。よく、大池さん達は大変いやな話をしてくれたと言った。大池さんは、40人中たった一人しか生き残っていなくて、その後、命がけで、こわかったと思った。しかも、まだ私達と一緒にいるのなら、こわくて、すぐに行ってしまうと思った。そして今も、中國とか中国で日本の歴史のことで、いろいろあって、歴史のいやな思いが、もう、深かった。

6-2 K.W.



戦争中の人は子どもやお年寄りの誰もせわなくてしきいた飛行機が来た時寺電球に黒いぬのをかぶせた。食べ物がまうどんやキッシュにするよで、仁古田に飛行機を製作場を作った。飛行機のからこの油松根油を取りに行、これを俵た大豆をまきしらかくした。さとうみ代わりにさとうきびを使つた。

③ 日々の学習に生かして

近くで、東山道の遺跡が発見されたとの記事を見つけ、早速見学に行きました。新聞記事を片手に実際にその場所に立って見ることで、実感を伴った学習になりました。

担任も事前に情報を入手し、準備はしていましたが、子どもたちが毎日交替で新聞を見る習慣をつけていたので、子どもたち自身が記事を発見し、見学に行けたという感覚を持つことができました。

東山道について
6年生

近づけようとした。ついに
一歩がまたねえ程
止みかけためられ
こいてすごいと思
二、昔の人はたくさん
少川たなと思ふ。

8世紀の東山道か



上田で道路遺構発見 幅や側溝県外の例と同じ

ある結果、JR五十九
六十六の所など、され
に植えられた樹を見つ
桜井塩蔵(さわいしおざう)の原帯があやめだ。東山道、
大庭(おほむら)は兵の町うどん推進がめめだ。現在は、
かた。やの細い「さわい」を継続したあだ。播磨(はりま)は兵ひめだ。
一七一二〇年の傳説も、近江(おうみ)が、県内にあり
て、それが傳説も、近江(おうみ)が、

ある結果、JR五十九
市花園(じはなぞの)公園のあやめだ。といつ子
たいすれやう。おはな
桜井塩蔵(さわいしおざう)の原帯があやめだ。東山道、
大庭(おほむら)は兵の町うどん推進がめめだ。現在は、
かた。やの細い「さわい」を継続したあだ。播磨(はりま)は兵ひめだ。
一七一二〇年の傳説も、近江(おうみ)が、県内にあり
て、それが傳説も、近江(おうみ)が、

道が運ぶ文化

上田地域には、古代の信濃国分寺跡をはじめ
島足島神社などの古い神社、大法寺や

中禅寺などの古刹などが数多く残っています。これらはすべて
東山道と関連をもつものです。道は文化やものを都から上田地
域へ運び、上田の独自の文化と交わって、新しい文化を生み出
してきました。もちろん、上田の文化が都や他の地域へ運ば
れ、新たな文化が生まれたこともあるでしょう。

日本道路公団で高速道路の設計と建設に従事していた武部健
一氏は、高速公路と古代駅路との間には共通点が多いことを指
摘しています。

その一つは、七駅路の路線総延長が、現代の高速道路計画
延長とはほとんど同じであるということ。二つめは、路線構成が
似ていること。三つ目は、路線位置が共通すること。最後に、
古代の駅(とインダーチェンジ)の位置が、ほぼ同じであることを
指摘しています。武部氏は、このように、古代駅路と現在の高
速道路の路線が共通する理由は、両方とも開通以前からある町
や村にとらわれず、独自の施設を置いて、目的地へ最短距離を
とるように路線を決定するからだとしています。歴史の不思議
さを感じます。

いま、現代の東山道ともいべき高速道路や新幹線が上田を
通りました。軍用道路でないことが幸いです。私たちは、この
道によって、どのような文化を創造していくのでしょうか。

IV 今年度の実践の成果と課題

本校の研究テーマ「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」の実現のために、事象との感動的な出会いの場面を設定し、充実した体験を積み重ねるとともに、学校生活のあらゆる場面で自分の思い・願いをよりよく表現する力を身につけ、保護者をはじめ地域の方々にその学習成果を発信していきたいと考え、実践を重ねてきました。

その中で、4・6年担当職員の学級で取り組んだ毎日の新聞学習が、研究テーマの実現にも着実な成果を上げてきてています。

朝10分の短い学級活動の時間の中に組み入れたスピーチタイムで仲間に新聞記事紹介をすることは、新聞全体をさっと見て自分の興味関心のある記事を探す力・読んで簡単に感想をまとめる力・みんなの前で発表する力を少しづつ向上させてきています。

特に6年生では、自分たちの総合的な学習のテーマや、「地域探検クラブ」など自分自身の学習テーマと関連した記事を見つけ、学習に生かすこともできるようになってきています。

また、低学年では、友だちの取り上げた記事を見ることで様々なことに興味関心を持ち始め、新聞を見るなどの楽しみを見つけつつあります。

このように無理のない範囲での取り組みを重ねることの重要性がはっきりしてくるとともに、どの学級でも肩肘張らずに取り組んでいく方向性は見えてきています。今後もこの方向の学習のあり方を模索していきたいと考えております。

反面、今年度は、新聞（記事）を直接題材に取り上げ、じっくりと時間をかけて学習をしていく単元を設定できませんでした。

基礎基本となる学習に対する時間も十分に確保したい上に、本校ならではの特色ある学習題材（単元）や行事もかなりあり、それらに対しても時間をかけて取り組んできている現状では、これを精選し、新たな単元を導入することは困難であると感じていますが、新聞と今までの学習とを組み合わせて、さらに有効な単元となるような工夫を見つけ、学習を発展させていきたいと考えています。

2年生での実態にあるように、最近では新聞を取っていない家庭も微増してきています。逆に4・6年生ともなると、家庭のインターネット回線を使わせてもらえる子もいて、中には調べ学習をそれでやって来る子も各クラスで数人いるようになりました。このように家庭の環境により、日々の生活の中で触れる情報の量・質に無視できない格差が出てきており、情報の共通基盤がなくなりつつあるという感じもあります。

そのような中で、学級に新聞があり、それを少なくとも当番に当たった子が見て記事を選んで発表し、情報を共有していくということ、その記事が掲載されている新聞をみなが一緒に見るということで、その情報格差の解消・共通基盤の生成に一役買えるのではないか、と感じた1年でした。

小学校の子どもたちが大人の読む新聞をそのまま利用するのには、かなり大きな壁が存在するのも事実であり、特に低学年ではその傾向が強くなります。高学年でも、次々とむずかしい言葉がでてくる新聞を読もうとすることは、かなりの労力を必要とします。もう少しやさしい、何種類かの子ども向け新聞が気軽に読めるような環境ができるといいと感じました。

最後に、1年間、このような学習・研究の機会を与えていただき、本当にありがとうございました。